

03. 株式会社 中野造園

たくさんの人に緑を身近に感じてもらいたい 造園会社が提案する森と人を繋げるプロジェクト

緑と人が
共存できる取組で
地域活性化を目指す



代表取締役 中野 創太

株式会社 中野造園

〒016-0001

能代市外荒巻字北山ノ上13

TEL・FAX:0185-57-4408

<https://nakanozouen.com/company/>



HP



街中で木の苗を育て、人と緑の接点を

能代市の北部、外荒巻にある株式会社中野造園で代表を務める中野創太さん。同社は昭和53年に創業、先代から事業を引き継いで令和3年2月に法人化した。主な事業としては一般住宅や企業の庭・植栽などのエクステリア、外構工事など庭づくり全般の依頼に対応している。

最近では手間を惜しむ余り、既存の庭を壊してコンクリートを敷き詰めてしまう人や、新たに家を建てても、庭ではなくカーポートを作り、コンクリートを敷くことが当たり前になりつつある。同社がある能代市は製材所が多く、かつては木都と呼ばれていた。木に親しむ人が減ってしまうことに危機感を感じた中野さんは、地元の方が木に触れる機会を増やしたいと、街の中で木の苗を育てるプロジェクト「とごっこ」を企画。企業の事務所や店舗の前に木製の箱を設置し、能代の森に生息する自生種の苗木を植え、その苗木を育てるというものだ。木箱には企業広告を提示し、スポンサー企業には年間契約をお願いする。いわば「広告型街路樹リースサービス」である。



現在準備中の「とごっこ」の苗。なんと8年前から構想が開始された。



設備貸与制度を活用したバックホー。
切り落とした大きな木の幹などを移動するために使用している。



奥様であり、秋田県よろず支援拠点のコーディネーターでもある
智恵さん(同左)とともにプロジェクトを具体的な形にしている。

緑とともに生きる魅力を広めたい

「とごっこ」とは「苗床」という言葉から付けた名前だ。苗木となる木製の箱と土は、いずれも廃材を活用。箱は市内の製材所で廃棄する予定だった木材をアップサイクルし、土は同社が依頼されて切り落とした枝や幹、木の葉などを原料としている。土づくりの作業には重機が必要で、活性化センターの設備貸与を活用してバックホーを導入した。

また、地域の子どもたちが森に関わる機会を作るため、自社が保有している雑木林を一般に開放できるよう整備を行う計画も進めている。地元で元気を取り戻し、子どもたちがのびのびと育つ環境を作りたいという願いもある。木と触れ合えるツリークライミング®を提供したいと考えており、そのために必要な認定機関の資格を先日無事取得した。この資格取得は、県内の事業者で初となる。

通常の造園業に加え、緑とともに暮らすことを身近に感じられる様々な取組を始めようとしている。